

南紀 天瀬谷沢登

シリウス班 丸～

山行日：令和4年9月24日（土）前泊、25日（日）遡行

山行メンバー：単独

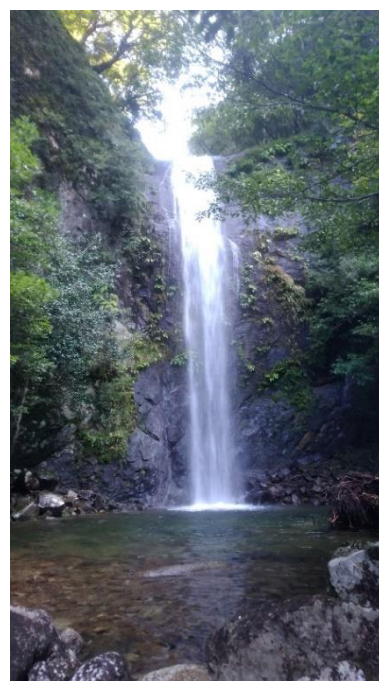
山行行程：前夜24日、川湯野営キャンプ場着17:30。翌日、25日6:50出発。⇒未舗装林道入口⇒駐車⇒林道歩き⇒入谷8:15⇒Co260m二俣⇒左俣遡行終了⇒Co700m12:00 コル⇒右俣下降⇒Co260m 二俣⇒入谷地点14:45

本宮から熊野川沿いを南下し、小口の手前、三和大橋を渡ると三重県になる。左折し約50m、注意ぶかく右手を見ているとプレハブが立っている広場から、超わかりにくい未舗装の林道に入る。車高が高い車のほうが良い感じ。途中、未舗装の路面が心配になって開けた広場に駐車する。準備して10分ほど林道を歩いていると舗装された道が出てきた。さらに15分歩く。屈折カーブの途中、ガードレールが途切れたところから入谷8:15、階段が数段あった。そこから巡視道の跡を辿り入渓。



最初の二俣は右の本谷へ進む8:30。標高約260mの二俣は、左俣へ。

ゴロ帯を登ると約15～18mの滝、9:15。右側のルンゼを大巻き。どこから沢に降りるのか少しわかりずらかった。その先は遡行図では小ぶりの五ツ釜となっていたがあったかな？ 次の二俣は右側へ。圧倒的なスラブ壁が左側に見える。その後も10～12mぐらいの滝が3カ所ぐらいあった、どれも簡単に巻ける。標高約520mの二俣は右側へ。ナメ床が続く。途中、約7mの斜滝はシャワークライミングで直登、11:15。ナメ斜滝15m、10mと続く。少し荒れ気味のナメ床もまだ続くが、時間や体力を考慮し、標高約700mのコルを目指すことにした。11:50 ナメ床を登っていると右側にコルが見えたので左俣は遡行終了。



コルを乗り越し、沢下降開始12:00。10分ほど下ると水が出てきた。比較的新しいガレ、土石が目立ち、慎重に下

る。ナメ滝がいくつか出てきたり、滝場を2カ所懸垂下降。二俣の標高約260mに戻ってきた14:00。本谷を下り、巡視道を経て、林道着14:45。林道を約25分歩き車ポイント着15:10。

感想：熊野川の水位情報では台風 15 号の影響はあまりなさそうなので遡行可能と判断し、25 日（日）天瀬谷に入渓。 沢中、水量は大したことはなかったが、ひとつ前の台風 14 号の影響なのかわからないが倒木や増水による流された木々や土石で荒れた感じで標高約 260m まで導水管の人工物が目立ち、全体的に雑然とした印象だった。

天瀬谷左俣の滝場の巻道は目印になる人工的なテープなどは全く無く、少しわかりにくいところもあったが危険箇所は無く高巻できる。天瀬谷左俣から右俣への乗り越しは、左俣を詰め、標高 800m ぐらいから支尾根を越えるルートも考えられるが、別に詰めなくても標高約 700m のコルを越えるのが地形的に一番近いと思う。

右俣もいくつかの支流があるが今回下降した支流は、技術的に難しい場面は特に無かったが、雨の影響を受けたようで比較的新しく崩れた土石や不安定なガレた箇所が目立ち慎重に下降する必要があった。

時間の関係で、入渓してすぐの二俣から左に入る、第一支流にある、ほしやたわの滝 60m の大滝を見ることができなかつたので、今度は大滝だけ見に訪れたいと思う。

ナメ滝、延々と続くナメ床

